

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 5 年 6 月 25 日現在

機関番号：15501

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2022

課題番号：16K12025

研究課題名(和文) 脳死下臓器提供における家族看護ケア指針の開発

研究課題名(英文) Development of family nursing care guidelines for organ donation after brain death

研究代表者

山本 小奈実 (Yamamoto, Konami)

山口大学・大学院医学系研究科・助教

研究者番号：60574340

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)： 脳死下臓器提供における家族ケア指針を開発した。開発した脳死下臓器提供における家族ケア指針は、「脳死とされうる状態と判断」、「臓器提供の機会があることを説明」、「家族の代理意思決定」、「2回の法的脳死判定」、「死亡宣告」、「摘出手術までの患者管理」、「摘出手術」、「お見送り」の枠組みに、51項目の家族ケアで構成される。

研究成果の学術的意義や社会的意義

脳死下臓器提供は、脳死となりうる状態から提供までに到る日数が6日程度とされている。このような切迫する中で患者家族は、臓器提供についての意思決定を求められ、さらなる心理的負担を抱えている。家族を失う悲しみの中で臓器提供の意思決定をしなくてはならない家族には、医療者の十分な支えが必要とされる。そのような家族に対して、脳死下臓器提供における看護ケア指針を開発する事は、家族ケアが確立でき、家族のニーズに沿ったケアが実践できることが期待できる。また、臓器提供した家族もケアを受けることで悲嘆促進が図れることも期待できる。

研究成果の概要(英文)： A family care guideline for organ donation after brain death was developed. The developed family care guidelines for organ donation after brain death include: "judgment of possible brain death", "explaining that there is an opportunity for organ donation", "surrogate decision-making by the family", and "two legal judgments of brain "Declaration of death", "Patient management until extraction surgery", "Extraction surgery", and "Send-off", and consists of 51 items of family care.

研究分野：看護学

キーワード：脳死下臓器提供 家族ケア 臓器移植

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

わが国では、2010年10月に、臓器移植法が改正され、脳死下臓器提供の件数は、増加傾向にある¹⁾。臓器移植法の改正に伴い、「臓器の移植に関する法律」の運用に関する指針(ガイドライン)、法的脳死判定マニュアル、臓器提供施設マニュアル等が整備された。その内容は、臓器移植に関する手続き、脳死下臓器提供の手順、法的脳死判定の手順・手続き、臓器保護に関すること等である。また、脳死下臓器提供は、脳死となりうる状態から提供までに到る日数が6日程度とされ、切迫する中で家族は、臓器提供について代理意思決定をしなくてはならない。

日本救急医学会や日本集中治療医学会および日本循環器学会では、終末期という判断やその後の対応について「救急・集中治療における終末期医療に関するガイドライン～3学会からの提言」を提示している。クリティカル領域での終末期の看護師の役割、家族ケアについての指針は、集中治療領域における終末期患者家族のこころのケア指針がある。しかし、臓器提供における家族ケアに関するガイドラインはなく、臓器提供する家族のケアニーズや臓器提供への思い、悲嘆、看護師の家族ケアに関する内容は明らかにされていない。看護師に関する研究では、家族のケアにかかわる看護師に焦点を当てた研究が多く、中でも臓器提供における看護師の意識について報告されているものが多い。それに比べ、臓器提供した家族の研究は、臓器提供の理由や臓器提供後の家族の悲嘆について述べているものはあるが、入院から退院後までの家族の思いは明らかにされていない。

わが国の脳死下臓器提供における家族ケアについては、脳死患者が発生する頻度の高い救急現場の医師や看護師の裁量に委ねられている。脳死下臓器提供は、終末期にある患者家族のケアの側面とその先にあるレシピエントの予後を踏まえた臓器保護を目的としたケアをするため通常の終末期とは違い特異的といえる。そのため、臓器移植の特色を踏まえたケア指針の開発は課題である。

2. 研究の目的

本研究では、脳死下臓器提供における家族ケアの実践を明らかにし、脳死下臓器提供における家族看護ケア指針を開発することとした。

開発した脳死下臓器提供における家族ケア指針は、臨床における脳死下臓器提供における家族ケアに活用できる。また、脳死下臓器提供の経験のない施設でも、指針を参考に臓器提供の家族ケアに備えることができる。

3. 研究の方法

脳死下臓器提供における家族ケア指針の作成過程は、脳死下臓器提供時の看護師が実践する家族ケアの構成と家族ケア項目の作成、ファークラスグループインタビューによる家族ケアの実践の明確化、脳死下臓器提供における家族ケアの妥当性。

脳死下臓器提供における家族ケアの項目作成

目的：脳死下臓器提供における家族ケアの項目を作成する

方法：これまでに調査してきた脳死下臓器提供における看護師の役割、及び脳死下臓器提供の指針やマニュアル、終末期に関するガイドライン、先行研究から脳死下臓器提供における家族ケアの項目を作成した。

ファークラスグループインタビューによる家族ケアの実践の明確化

目的：臓器移植コーディネーターによる脳死下臓器提供の家族ケアの実態

方法：5年以上の経験がある5名の臓器移植コーディネーターに、家族ケアの実践と課題をフォーカスグループインタビューした。調査項目は、臓器提供の説明、臓器提供の意思確認、臓器提供の承諾、法的脳死判定の手続き、臓器摘出までの対応、臓器摘出後の対応、退院後の対応とした。

脳死下臓器提供における家族ケアの指針の内容妥当性の検証

目的：脳死下臓器提供における家族ケア項目の内容妥当性を検証する

方法：脳死下臓器提供における家族ケアの内容妥当性を検証するために、脳死下臓器提供の経験のある看護師2名、急性重症患者看護専門看護師2名、救急・集中治療域の教員2名で検討した。内容は、家族ケア項目内容の妥当性、表現の適正、追加すべき項目について検討を行い、ケアの内容や表現などを修正した。修正した指針は、脳死下臓器提供施設の看護師に調査した。

4. 研究成果

脳死下臓器提供における家族ケアの項目作成

脳死下臓器提供の家族ケア経験のある看護師 20 名のインタビュー調査結果と臓器提供に関する指針、先行研究から 59 項目のからなる脳死下臓器提供における家族ケア指針を作成した。国内の臓器提供の指針に示されている脳死下臓器提供のプロセスは、「脳死とされる状態と判断」、「臓器提供の機会があることを説明」、「家族の代理意思決定」、「2 回の法的脳死判定」、「死亡宣告」、「摘出手術までの患者管理」、「摘出手術」、「お見送り」である。そのプロセスに沿って、59 項目の家族ケアを作成した。

フォーカスグループインタビューによる家族ケアの実践の明確化

5 名の臓器移植コーディネーターにフォーカスグループインタビューを実施した。「臓器提供の説明」では、家族の構成・パワーバランス・の確認、患者の思い・家族の気持ちを確認する、家族の心理状態をアセスメントし時間をおいて説明する。「臓器提供の意思確認」では、個々の表情などを確認し、家族の言動や、看護師の情報から個別に確認したほうがいいのか判断する、家族が合意している結果をきくのではなく、どのような過程で反し合ってきたのか確認する。「臓器提供の承諾」では、承諾書に同意している最中に泣き出す、手が震えて書けない家族には、声をかけ落ち着くまで寄り添う。「法的脳死判定」、「臓器摘出までの対応」では、医療者が処置や介助に要するため、家族に実施されている検査・処置について説明する、面会時間の調整をする。「退院後の対応」では、家族の生活状況（心理・身体）について確認する、生前の患者について家族の話を傾聴するなどであった。インタビューの結果を表 1 に示す。

表 1 臓器移植コーディネーターによる脳死下臓器提供する家族ケア

脳死下臓器提供のプロセス	カテゴリー	サブカテゴリー
臓器提供の説明	家族の情報収集	<ul style="list-style-type: none"> 電子カルテや医療者から家族構成、家族関係、パワーバランスを確認する 家族の面会の頻度を確認する
	患者と家族の臓器提供の意思	<ul style="list-style-type: none"> 患者の人柄や家族関係を家族から聴取する 臓器提供の話を知りたい理由を確認する 本人の気持ち、家族の気持ちを確認する
	家族の心情を察知	<ul style="list-style-type: none"> 泣いている家族がいれば落ち着くまで時間をおく 家族一人一人の反応を観察
臓器提供の意思確認	家族の反応	<ul style="list-style-type: none"> 個々の表情などを確認する 家族の言動や、看護師の情報から個別に確認する パワーバランスでのプレッシャーがないか確認する
	家族の意思決定過程の確認	<ul style="list-style-type: none"> 合意形成した過程を確認する 他の家族に意見がいえないうときは、CO が代弁する 家族の意思が語れるきっかけをつくる 話し合う場合に、CO が参加し必要な情報を提供する
臓器提供の承諾	家族に寄り添う	<ul style="list-style-type: none"> 同意書の記載中に泣き出す、手が震えて書けない、住所がわからなくなる家族に声をかける
	同意の確認	<ul style="list-style-type: none"> 承諾後も同意撤回が可能なことを説明する 翌日家族の反応を確認する 家族が不安に思っていることなどを確認する 不安な家族には、医療者に相談しもう一度説明する 情報提供に関しては専門職にも同席してもらう
法的脳死判定	情報提供	<ul style="list-style-type: none"> 法的脳死判定の流れを説明する 行われている処置について説明する 傍にいるか確認する 2 回目の脳死判定の開始を確認する

	家族の代弁者	<ul style="list-style-type: none"> ・法的脳死判定中の家族の思いを医療者に伝える ・お別れの時間を大切にする
臓器摘出までの対応	家族の時間	<ul style="list-style-type: none"> ・患者の傍にいれる時間を調整する ・患者に触れていいことを説明する ・レシピエントや搬送経路の説明をする
	看護師との調整	<ul style="list-style-type: none"> ・面会について看護師と協同し対応する
退院後の対応	家族の生活状況	<ul style="list-style-type: none"> ・家族の心理的・身体的なことを確認する ・不安な家族については訪問する ・悲嘆反応を確認する
	家族の思い	<ul style="list-style-type: none"> ・家族が語る患者の話を傾聴する ・知りたい情報がない確認する ・臓器提供後の気持ちを聴く

脳死下臓器提供における家族ケアの指針の内容妥当性の検証

で作成した家族ケア項目と で調査した家族ケアの結果を、脳死下臓器提供の家族ケア経験のある看護師と急性・重症患者看護専門看護師、教員の6名で行った。検討する際には、脳死下臓器提供した家族の思い調査結果を踏まえ検討した。そのうえで脳死下臓器提供における家族ケア項目内容の妥当性、表現の適正、追加すべき項目について検討を行った。検討の結果、10項目表現の修正、2項目追加した。

修正した脳死下臓器提供における家族ケア指針は、脳死下臓器提供施設(2施設)の家族ケアを実践している看護師7名にインタビューし、表現などの修正を行った。

脳死下臓器提供における家族ケアの完成

脳死下臓器提供における家族ケア指針は、脳死下臓器提供プロセスに沿って51項目の家族ケアとなった。

脳死下臓器提供における家族ケア指針は、「脳死とされうる状態と判断」では、家族の心理状態を確認する、情緒的な安定が得られるようにするなど9項目となった。「臓器提供の機会があることを説明」では、患者と家族の臓器提供の意思確認をする、家族の反応を確認するなど10項目となった。「家族の代理意思決定」では、家族の意思決定プロセスを確認する、家族の意思決定を尊重するなど11項目となった。「2回の法的脳死判定」では、行われている処置について説明する、お別れの時間を大切にするなどの4項目となった。「死亡宣告」では、別れの時間を確保する、家族が希望する見取りを援助するなど6項目となった。「摘出手術までの患者管理」では、患者との時間を調整する、家族の休息を援助するなど4項目となった。「摘出手術」では、摘出後の患者の身体的特徴などについて説明する、摘出後の清潔ケアを一緒に行うなど3項目となった。「お見送り」では、家族の思いを傾聴する、支援が必要な家族には、退院後もサポートしてくれる専門職を依頼または紹介するなど4項目となった。

作成した脳死下臓器提供における家族ケア指針は、脳死下臓器提供施設で家族に関わる医療者が活用できる指針となった。脳死下臓器提供のプロセスに沿ってケアを実践できることで、家族ケアの向上に期待できる。

引用文献

- 1) International Registry in Organ and Transplantation WORLDWIDE ACTUAL DECEASED ORGAN DONORS 2022.
- 2) <https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000869673.pdf>, 2023.2.1 閲覧, 臓器移植対策の現状について, 厚生労働省
- 3) 日本臓器移植ネットワーク: <http://www.jotnw.or.jp/> アクセス日 2023年5月30日
- 4) Elo S., Kyngas H.: The qualitative content analysis process. J Adv Nurs 2008; 62: 107-15.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 山本 小奈実
2. 発表標題 臓器移植コーディネーターによる家族ケアの実践と課題に関するインタビュー調査
3. 学会等名 第56回日本移植学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 山本 小奈実
2. 発表標題 脳死下臓器提供における看護師の家族ケア
3. 学会等名 第56回日本移植学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 山本小奈実
2. 発表標題 脳死下臓器提供における看護師の家族ケアの実際と今後の課題
3. 学会等名 第15回日本クリティカルケア看護学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山本小奈実
2. 発表標題 選択肢提示における看護師の役割
3. 学会等名 第14回日本クリティカルケア看護学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山本 小奈実
2. 発表標題 脳死下臓器提供における看護師の役割の実態と課題
3. 学会等名 第52回日本移植学会総会
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	田戸 朝美 (Tado Asami) (30452642)	山口大学・大学院医学系研究科・准教授 (15501)	
研究分担者	佐伯 京子 (Saeki Kyouko) (60759687)	山口大学・大学院医学系研究科・助教 (15501)	
研究分担者	山勢 博彰 (Yamase Hiroaki) (90279357)	山口大学・大学院医学系研究科・教授 (15501)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------